

# 論壇



●美頤歯科医師会 会長  
小森 英世

## より良き明日をめざして

人間誰も夢の実現に向かって生きているのは、I have a Dreamと高らかにうたったキング牧師に限らない。青春時代に造反有理の文革やケネディ兄弟の理想主義の頓挫を経験した私どもの世代もすでに40年近く歯科医療に携わり、今日を迎えている。

簡単に達成できると考えた色々な問題が未だ解決されず次世代に引き継がれようとしているのは残念なことである。

1. 少数残存歯（孤立歯を含む）に対する処置としてOverdentuers（BREWERら）が上梓されたのは私どもの学生時代である。8020推進運動を声高に叫んでも、歯牙の保存、顎堤の保存を職業第一の価値と考えなければ、実現を遅らせているのは一体誰かということになる。抜歯の原因の大部分が歯周病となれば、今、再び歯根の保存重視に立ち帰る必要性はないだろうか。
2. 歯周病と糖尿病の関連など、口腔と全身を関連したものとして診ようという至極あたりまえのことが病診連携と相まって改めて検討の機運にあるのはより進歩した一面であるが、当事者である歯科医師が歯周病にもっと病態ごとに複雑に向き合う必要がある。歯周ポケット2~3mmで歯周病と一把ひとからげにし、国民病などと宣伝することなく、真性ポケット5~6mm以上が多数偏在し、急性期と慢性期を繰り返すタイプなどに的を絞る、吟味していかなければ糖尿病との相関については真実に近づけないのではなかろうか。
3. 生涯、むし歯や歯周病などの病因論について学校の授業の、おそらくは大多数で行われていないとなれば、歯科口腔保健法制定も喜んでばかりもいられない。甚だ立ち遅れている領域といえよう。福井県歯会の「歯の学校」のような試みは注目すべき動きだが、国の意思が（仮にあるとするならば）反映されない教育の

- システムとすれば大きな問題である。
4. 歯科医師会の会務をやっているとよくわかることだが厚労省、保健所、日歯会、道歯会などから会員諸氏への伝達依頼の書類が毎日相当量送られてくる。現実問題として、幾多の理由により郵送で皆さんに送る訳にはいかないので、当然取捨選択し、情報の重要度、必要度をふるいにかけて急ぎのものはメール、FAXなどで伝達するシステムが、会の運営には必須である。同じく、大部にわたる資料情報などは、皆さんが立ち寄れる情報を共有する場が必要である。当然、管理、検索システムがきちんとしたものではないと行かない。例えばFC1（明海大学提供情報共有サイト）のような情報共有の場に、日歯会や道歯会が主体的に参加することにより、他県歯会間、他郡市区歯会間と発展性を持つやり取りの場として活用していくのも一案と考える。郡市会等との情報のやり取りを、今後そこでのみ行うと宣言するだけでいいのだが。自前のHP内での情報のやり取りで解決済みと考えるのは消極的すぎて、相互の発展性に欠け拡がりを持たないので、当面同時進行、並立の形でいくのが正解と考える。
- 会と会員との情報の伝達方法は、昔風のやり取りからは、激変している。
- 現在も以前よりは格段に進歩充実した内容（道歯会通信の充実やDo歯メール通信）になっているのは誠に喜ばしいことである。
- にも拘らず時勢は待つてはくれない。山積する諸問題のひとつである経費削減の第1の切り札が、IT化の推進にあると思われる（郵便物や宅配物が激減する）。すでに問題は多くの企業や学校にタブレット型端末が配布され使われだしているように一般事務の簡素化（資料配布）にとどまらず、公衆衛生事業などに如何に組み込み拡げていくかという点に移っているように思われる。